

ふうちゃんのひとりごと

あさの 風子

ひとり旅にでる 神戸編

目 次

2015・04・30(木)	
ひとり旅にでる…	1
2015・05・03(日)	
従妹違い(いところがい)	10
2015・05・17(日)	
たぶん、あしたは雨になる	14
2015・05・18(月)	
しらんかお	17
2015・05・23(月)	
わたり鳥	20

2015・05・26(火)	
ぎんいろの波	23
2015・06・02(火)	
今日だけなんだから…ね	28
2015・06・14(日)	
他人ごと	37
2015・06・19(金)	
悲しいねっ！	42
2015・07・14(火)	
この頃のこと	46
2015・07・28(火)	
その理由	

ゴールデンウィークは わたしの場合あまり関係ないけれども、毎月5週目はレッスンがお休みで、日常から離れてひとりで過ごしたくなり、神戸のベイエリアへ向かいました。

28日はハーバーランド Umie 周辺を歩き、海辺ではたくさんの人が春を満喫していました。アンパンマンミュージアムがすぐ傍にあって、観覧車がよく見えました。名前のとおり、1940年代？ のアメリカのオールドソングが流れ
(映画「きみに読む物語」で二人が出逢った時代



に流れていた曲に似ていたから)、フリーマーケットや、屋台などのお店がたくさん軒を並べています。やがて、クルーズ船が汽笛を鳴らして出航して行きました。

そもそも、お昼を食べてから家を出たので、早めにホテルにチェックインしなくてはなりません。

海岸沿いを海の景色を眺めながら、写真を撮りつつ ゆっくり歩いてホテルに着きました。

高層階のお部屋ではなかったのですが、ベランダから海の景色が十分見渡せるので満足しました。

夕食はお部屋で、具たくさんの天井を食べました。美味しかったけど、少しもたれました^^;

翌日は、早朝にホテルからまっすぐメリケンパークを散策、その後、元町駅まで行って歩いて帰ってきました。荷物を持って、駅までどのくらいかかるのか調べてみたかったのと、元町商店街にある昔ながらの喫茶店で、小倉ホットケーキを食べさせてくれると言うので（ガイドブックに載ってます）、探してみようと思ったのです。

でも、あまりにも朝が早かったために、休日 歩いている人が少なく、ちょっと怖くなり、お店までは行きませんでした。場所は大体分かったものですから…

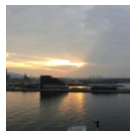
今は iPhone があれば、迷わず目的地に着けますしね。

ホテルに帰ってから、バイキングの朝食をゆっくり食べてシャワ

一を浴び、チェックアウトぎりぎりの時間までゆっくり過ごそうかと思ったのですが…

予定より早めにチェックアウトして、バイエリアの近くの旧居留地あたりも見回ることになりました。ふだん朝、散歩を30分以上するので、歩くのはちっとも苦にならないのだけれど、お土産をホテルで買って荷物が多くなったから、どうしようかと迷ったのです。でもやっぱり、自分の足で見回るのがいちばん楽しいから、タクシーはやめて歩くことにしました。

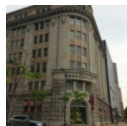
旧居留地のビルディングはレトロで モダン？ だけ



れど、近くでは写真に入りきれないので、いくつもの所で諦めました。それに、行きかう町の人の中で立ち止まって、パシャパシャ写真撮っているといかにも観光客っぽくて恥ずかしいですしね。

大丸百貨店をなんとか iPhone のカメラに捉え、そこから 元町商店街に足を踏み入れました。

そしてそのまま目的のカフェへ… 以前羽田でホットケーキが欲しくなって探したけれど、結局 薄いパンケーキしかなくて諦めた経験があるので。



倉敷のアリオの、とある喫茶で「よしよし ここはホットケーキが

ある！」と思って注文したら…

すごく時間がかかって、お腹がグーッ(*_*)

でも、こちらのお店は、ちょうど良いぐあいに運んでくれました。近所のお馴染みさんがカウンターで新聞を広げて見ているし、ウエイトレスさんは年配の人ともう一人で 気配りがいい。テーブルは昔あったようなこじんまりしたテーブル、シュガーポットも懐かしいタイプ。

そう言えば学生の頃、こんな感じの喫茶店でバイトしたことがあったっけな…

アーケード通りは昔ながらのお店が並んでいて、たくさんの家族連れで賑わい、岡山のかつての表町商店街を彷彿とさせました。

でも表町は残念なことに、駅の近くにないから、今では閉店したお店も結構あるんだとか… ちょっと寂しいですね。

結局 神戸駅まで歩き、それでも、帰るまでにもう一度海を見たくなって、ハーバーランドまで戻りました。

大木を囲んでいる、大理石みたいな大きな石に座って、海を眺めました。何人も同じように お菓子やパンを食べながら座っています。

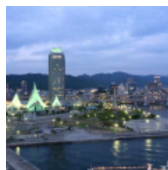
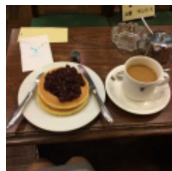
クルーズ船が出航を告げています。古き良き時代の曲が流れて、子供達の幼い元気な声が聞こえ、風が涼やかに頬を撫でては 通り過ぎます。

いつの間にか1時間ばかりが経ってしまいました。帰らなくてはなりません。

海を背に神戸駅へ向かって歩き出しました。

その向こうに、わたしの日常は待っています…





従姉妹達(いとこちがい)

2015-05-03 (日)

従姉妹の子供のことを なんと呼ぶのか知ってます？

「従姉妹達」 っと呼ぶそうです…

その子が教室に習いに来てるんですが、今日は雨だったし彼氏が送ってくれたみたいで、紹介してくれました。

やさしそうな男性で、幸せそう(^_-)

まだ、一緒に暮らして1週間なんだそうです。



今日は、思いがけず雨になりました。ゴールデンウィークでお出
かけの人たちはちょっと、がっかりかな…

毎朝 散歩するのですが、そうすると季節の変わり目が、よく分か
るんですよ。

いつも、真っ暗で見えなかった景色が、ある日ぼーっとパステル
色の風景として浮びあがってきたり…

春の雨はどんな感じに降るんだとか…（今年の雨は春雨っぽくな
かったけれど）

草むらで、蛙や鳥や虫の音がだんだんはっきり聞こえてくるんだ
とか…

優しくった朝の日差しは、少し肌に痛い感じで照り始めるんだとか… ね。

そうすると、ちょっと 和歌（うた）が浮かんできたりする…

「ふりしきる 雨に隠れて ^{うぐいす} 鶯 の

そぞろに春を 歌うなりけり」

「風や吹き 傘でさえぎる さくら雨

見えるは私の 足もとばかり」

ついでに

神戸のハーバーランドでのものを…

「懐かしき あめりかのうたぞ 軽やかに
波止場の町に 春風は吹
く」

画像なんか入れると こんなふう…



懐かしきあめりかのうたぞ軽やかに
波止場の町に春風は吹く



たぶん、 あしたは 雨になる 2015-05-17 (日)



姫路城に 行った生徒さんから、お土産をいただきました。とてもお天気が良くて、真っ白なお城の壁が すばらしく美しかったそうです。

真っ白と言えば…

その日の朝早く、わたしは空に ひこうき雲を見つけました。

みず色の

空にひとすじひこうき雲

モコと浮かびてゆるやかに行く

水色の空をゆくひとすじの雲は ためらいもなく 空を二分して続きました。

調べたところ、飛行機の排気ガスの水分が、上空の高い所で冷えて 湿ってしまうと それが雲として見えるんだそうです。

というわけで、ひこうき雲がよく見える日の翌日は、雨になることが多いんだとか…

知ってました？

そして今朝も、この前よりは 少し遅い時間だったけれども、ひこうき雲を見ました。

だから…

たぶん、あしたは 雨になる____ のでしょう。



うつすらとかすかになびく

ひこうき雲

たぶんあしたは雨になる

しらんかお

2015-05-18 (月)

わたしのところには、なぜか いろんな相談ごとが舞い込んできます。

相談ごとなのか、相談ごとにしてしまうのか、定かではありませんが…

パソコンの質問やトラブル相談は当たり前だけど、それ以外のものもろもろの困りごとや悩みごと、たとえば__

就活、婚活、恋愛、子育て、健康、ペットの病気にいたるまで、ほんのちょっとした話の小口からどんどん広がって、ついには他

人ごととは思えないことになり――

わたしにも、こんなことあったし… と いうところから、憤慨したり、悲しんだり…

全く 経験のないことでも、すぐ自分のことのようにイメージしてしまうから、たわいのないおしゃべりは、いつの間にか 結構なボルテージでわたしの脳内をかけめぐり、それはいつしか 一大事になってしまうのです。

そして ついには、夕ご飯の支度に遅れ、フライパンの上のお料理はコゲコゲになってしまう運命！

これには、やはり大きな性格上の問題があります。

それは、しらんかおができない という性格 です。

だけれども、そのせいで、わたしは いつも 身近なだれかと一緒にいる感覚を持つのです。

必要とされる？（と思っているのですが…） ということは、生きていてよかった（^）v

と実感できるものなのでしょう。



わたり鳥

2015-05-23 (月)

日本では、1年で今がいちばん 気候がいい季節ですよ。
というわけで、空を見上げると、最近はいろいろな鳥を見かけます。

歩きながらゆっくり見ていると、それぞれに特徴のある飛び方をしているのが分かります。

中でもツバメはその飛び方が美しいので、つい行く先を目で追ってしまうのですが、写真を撮ろうとすると いつの間にか視界から消えていて、なかなかiPhoneの カメラには捉えられません。

大きな翼で体は細く、体重も軽いので、高い空を速く飛べます。
水面を流れるように飛びながら水を飲み、水浴びをし、昆虫などのエサを捕まえることもできます。
南の国からやってくる時は、群れをなさず、1羽ずつ何千キロもの海を渡ってきます。

太陽を目印に飛ぶので、方向を間違えることはありません。
寿命は平均1年半、そして 基本的には 一夫一妻制のようです。
飛ぶ速さは 時速50kmから最高200km以上にもなるそうで、新幹線が220kmより速いぐらいですから、その速さが想像できますね。

つばくらめ

えさを求めて 飛翔する

空切る姿の 美しきかな

今朝は、わたしのすぐ傍を過ぎて行きました。

こんなに低空で飛ぶ時は、お天気が崩れる前兆
だと言う人もいます。

空気が湿っていると、エサになる昆虫の体が重
くなって低くしか飛べないので、ツバメもその
ために 低空飛行になるんだとか…

というわけで、明日は雨が降るかも？
です。



ぎんいろの波 2015-05-26 (火)

近くにいながら、四国に渡ることがあまりなかったので、今日はお天気がいいし、瀬戸大橋を渡って高松、さぬき方面へ行くことにしました。

香川県で有名な観光地は いろいろあるみたいですけど、とにかく景色の良い所ということで、さぬき市にある大串自然公園に決めました。



薄青く

けぶる彼方に小豆島

喋々ひらりと

瀬戸内の海

通常は、ワイナリーとか野外音楽広場とかいろいろ楽しめる施設があるのにもかかわらず、今日は運悪くお休みで、観光客の姿を見かけません。

ほとんど、自然を 貸切状態です。

おかげで、ゆっくり海を眺めることができました。多少 道には迷いましたが…

そこはそれ、いつもの手を使って調べたら、なんとかたどりつけるものですね。



展望台から見る瀬戸内の海の景色は、それは ため息が出るくらい美しく、しばらく時をわすれて見入ってしまいました。

日本の地中海と言われる その明るい海と空の調和、悠々と空を飛ぶ鳥の姿、それらは自然の完成品としか言いようもなく…

写真をたくさん写しました。

歩いたらお腹が少しすいたので、帰りは 高松にある北浜 Alley という、波止場の倉庫を再利用して作られたおしゃれな一角で、軽くお腹を満たしました。

ノスタルジックな路地裏にある Umie というカフェです。

岡山の間屋町を彷彿とさせましたが お店を探すのに ちょっと苦労したので、やはり少し下調べをしてから、行くべきですよ。



コーヒーもマフィンもおいしかったのですが、どうもオーダーをしてからお菓子は焼いてくれるようで、お腹がすいた旅行者にはちょっと 待ち遠しかったかな (^_^)

窓辺のカウンターで 海を眺めながらのティータイムは、さすがにご馳走でしたけれど…

その後 シンボルタワーへ行って、1階のお土産ショップで タルトなんかを買い、帰路につきました。

4時を過ぎて、帰りの瀬戸大橋から見る海は、まぶしいくらいきらきら輝いていました。



きらきらと 光り輝く 銀の波
後ろに流れて 帰りゆく道

今日だけなんだから…ね 2015-06-02 (火)

わたしは、家を引っ越してから駅近くに住んでるので、移動にはよく電車を利用します。

電車に乗ると、女性の最近のお化粧や髪型、流行の服、バッグ、傘、靴など、美容院やショップで見たり聞いたりしなくても、今、どんなものが人気なのか、自然と分かるようになります。

岡山からマリンライナーに乗って帰宅する時は、余裕で座れる時もあるのですが、時間帯によって、満員のこともよくあります。特に平日の5時頃からは いつも詰め込み状態で、早めにホームに

並んで待たないと、降りるまでずっと立ちっぱなしということにもなりかねません。

昨日も、学生や通勤の人達でいっぱいでしたから、吊革に掴まろうにも 空きがない状態で、なんとか椅子の背に手をついて、立っている状態でした。



そんな中、まだ幼い幼稚園の姉弟が ひしめく人並みの間を縫って 乗ってきました。

丸亀にあるおうちまで帰るようでした。

お姉ちゃんはしっかり者で、きっと何度もこういうことがあった んでしょう。

この電車を乗り過ごして、次の特急で帰ろうと弟に提案しているのですが、どういうわけか、弟がガンとして言うことをきかないのです。

まだ入り口付近に立っていたので、すぐ降りることもできるはずでした。

出発は少し遅くなるけれども、到着は4分しか変わらないし、次の特急はガラガラで、ゆっくり座れるからと何度説得しても、弟は動きません。

手をひっぱっても、返って足を踏ん張って、動くまいと懸命です。ついに、お姉ちゃんの手が 弟の頭を軽くぽんと叩きました。

が、いけないということをよく知っているからか、かげんしてやっている様子…

そのうち、とうとう電車は出発してしまい、二人は 掴まるものもなく、立っていました。

お姉ちゃんは、ずっと弟の方を向いて、自分の言うことを聞かない勝手な行動を責めています。

弟はと言うと、電車の天井の方を見ながら、しきりとわけの分からない文章を、あたかも 意味のある文章であるかのように ぶつぶつぶやきながら、まわりを見向きもしません。

ひょっとして、泣きそうなのじゃないかと思ったのですが、見た

ところ そんな素振りは見受けられませんでした。

次の駅に着き、何人もの人が降りたので、空間が空き、ちょうど彼らの頭ぐらいのところに 掴まり棒があったので、その場所を二人並んで、うまく確保できたようです。

そうこうしているうちに、お姉ちゃんの口調はしだいに穏やかになり…

もしかして、おうちで待っているお母さんのことを 意識したのかかもしれません。



そして、ついに…

「今日だけなんだからね！！」

… やっと お許しが出たのです。

身長は 同じくらいで、きっと体力もそう変わらないんでしょう。
けれども、お姉ちゃんは お姉ちゃんなのです。

いつも、お姉ちゃんの言うとおりを聞いてきた？あるいは聞かざるをえなかった、なるほど、もっとも、そのとおり、お姉ちゃんの言うことは正しいのだけれど、いつも 言うことを聞くばかりはいやなんだ そういうつぶやきが聞こえてきそうでした。

弟は、今日のこの時 やっと反撃ができたのではないのでしょうか。
そして、勝利したのです！

生きていると、なるほど、もっとも、そのとおり、そうした方が
楽で間違いないし、だから、みんなそうしているんだってことが、
よくあります。

だけど、それが分かっているけど、そうはしたくないんだという そ
の抑えられない自由への渴望というか、そういう気持ちも分かる
んです。

いいこと、正しいこと、得をすること、楽なこと、便利なこと、
そういうことをあえてしないことが たまには あってもいいんじ
ゃない？

これ、悪のすすめ じゃないんです。

世の中の 常識ばかりが いいのじゃない。

自分の したいことは何なのか。

人のすることを 否定もしてみよう。

そして、時には 損なことをしてみる勇氣も欲しい。

そうしたら、ひょっとして、今までの自分とは違う自分を発見するかもしれない。

そうじゃないですか？

あの弟の幼稚園生（園児という言葉は不似合いでしょう）は、きっと、そのうち お姉ちゃんを 超えるのじゃないかと

わたしは、思いました。

そして、子供たちの周囲に甘えない態度が すばらしい。

どちらにしても、二人ともに無限大の可能性があるんだってことは 間違いのない事実のようです。



他人ごと

2015-06-14（日）

どういうわけか まあ 普通に生きてるつもりなんだけれど、仕事の関係や、教室を開いているっていうせいで、いろいろ専門以外のことまで頼まれることがあります。

そして、それは家族や親類にいたっては、ほとんど当たり前のことになっています。

時間や体力に余裕がある時ばかりはないし、お休みの日とかは困るので、無線の設定やパソコンのトラブルとかについては、必ず「専門」にお願いしてくださいと言うのですけども…

それをそのまま 知らんぷりできないのは、これもわたしの性格に問題があるのでしょう。

「専門」でない限りは、ケースによって、とても時間のかかる場合があるので、実のところ結構疲れますが、頼んだ人には、そのことがよく分かってはいません。

ま、だけれども…



そのおかげで、専門外の様々なことや新しいことは、経験を通して自分の頭の中に入ってくるので、勉強と思える時にはそう思い、そう思えない時は いっぱいたまった心の中のモヤモヤを、きれいにする旅に出ます。

自分が「いい人だ」とは思ったことは あまりないので、「いい人は疲れます」と言いつつ、今日もパソコンの前に座っています。

ずーと以前に「スーパーマンリターンズ」の映画を観ました。

調べてみると、もう9年も前になるみたいです。

故郷のないヒーローは、故郷を探す旅に出て、不在の間に変わってしまった地球のために悪と戦うのですが…

最後にロイスは、こう言います。「また会える？」

「いつでも…」

いつでも、どこでも、あなたの心の中に
...

みたいな感じ。

ロイスは 微笑んで 空を見上げます。

恋人がヒーローだから、ロイスもいい人
でなくちゃいけません。

スーパーマンは寂しくなって 故郷に行っ
たのかな。

5年で帰ってきたからいいけど、これ地球
的に50年とかだと、ロイスはいったいど

他人ごと

自分ごとにした一週間

終わってみれば

意識と変わらず

うなっていたんだらう？

スーパーマンの相手は 「うらしまはなこ」 になっていたでしょう。

「うらしまはなこ」 は、「はなこ」 のまま 年老いたでしょうか。
スーパーマンは 「はなこ」 を 思い続けたでしょうか。

そんなとりとめのないことを 思いながら、いろいろあった1週間
がやっと終わりました。



悲しいねっ！ 2015-06-19（金）

教室に 来てくれるようになってから、随分長くなる キムラちゃんが 今日には珍しくあまり遅れずにやって来たのだけれど、ちょっぴり元気がなかったのです。

それで、おもしろい写真を披露しようと 最近ネットで見つけた 顔パックの写真を見せたら、笑い出し…

「どうして？」って言うので、

「あのねえ… 自分の顔パック写真をフェイスブックに載せようと思ったんだけど…

「やめなさい！ぜったい！！」ってみんなに強く言われたもんだから…」

「……」そこで、また、ふき出して…

「火曜日にね… 朝暑くなったから、夏用の ウォーキングウェアを買おうと出かけたんだけどね。

雨のせいもあって、信号待ちが長かったの。

それで、何気にネットで探してたら、この写真 見つけたのよ。

で、ヒマラヤに着くまでほんと、ずーっと笑いが止まらなかった。

それでね。この写真、すごく悲しい時にぜったい見ようと思って、保存したのよ。

なんか おたふく顔 の パックみたいでしょう？

でも保存したから、これで 安心だわぁ！」

すると キムラちゃんが…

「悲しい時に この写真を見るなんて__ そんな悲しいことあんの
が 悲しいねっ！」 って…

で、ふたり顔を見合わせて 笑い転げました。

あんまり笑ったんで、涙がこぼれました。

どうも… わたしには たいして悲しいことが ない
って 思ってるに違いないな、これは…



この頃のこと… 2015-07-14 (火)

このところ、忙しくしていてなかなかブログが書けませんでした。

生徒さんと一緒に、児島の電気屋さんにパソコンを買いに行ったり、Office の ライセンスキーを買ってパソコンにインストールしてあげたり、無線が飛ばなくなってネットに接続できないと言われるので、お家まで見に行ってあげたり…

本業の他に出かけることが多くなっていました。

それと、なかなかいいテーマも見つからなかったのも…

ところで、台風が西日本方面に近づいているらしいですね。

昨日の朝は、散歩の時に空を見上げると、薄墨色の雲の合間から見える空の色が透明で、3D的に壮観で美しかったです。

人間だって同じじゃないでしょうか。

真っ青に澄んだ空は美しいけれど、薄墨色の雲の隙間からのぞく透きとおった薄水色の空は、太陽に照らされた青天の空の色とは別の美しさがあるのです。



それから…

朝いつも土手から見かけるカフェがあるのですが、どうしてもその場所に行く道が分からずにいました。

ネットで調べると、結構オシャレなカフェのようで、ギャラリーもあって落ち着けそう…

それが、偶然、教室の生徒さんもそうだったとかで、道を教えてもらいました。

ヒマができたら行ってみたいです。

東京に旅行に行った人から、クッキーとチョコレートをお土産にいただきました。

クッキーは東京駅にあるお店でしか買えないんだとか…

(最近では、羽田の飛行場にもあるそうです)



今年の夏はわたしもまた、東京に行こうかと思っていたのですが、秋に京都に行くことになり、どうしようか迷っています。

去年の旅行の際、見られなかった所があって、行きたいし…

7月は岡山市民会館であるコンサート、8月はトム・クルーズのミッションの新作を観る予定で、10月は旅行とは別に、ちょっと懐かしい歌を聴きに県外に出かけようかと思っています。

これじゃ、ゆっくり夏バテしているヒマはなさそうですねえ…

太陽をさえぎる雲に背を向けて

彼方に望む透明な空



裏どおり

新しくできた田舎カフェ

土手から入る

道を知らず



今朝の道

カラスが嗤い犬が吠え

鳥が飛び立つ嵐の予感



すずやかな

風がからだを透りぬけ

我は逸話の

人となりゆく



めずらしく、近くの本屋さんで立ち読みをしました。

人気NO.1の位置に並べられていたのが、この「103歳になってわかったこと」という本です。

なるほど、100歳を超えるとこんな考え方もあるのか…と言った感心する内容も確かにあったし、わたしたちが当たり前に 常識として知っている内容もあって、確かに いい本ではあるでしょう。

103歳まで生きて、美術家として仕事をしていると、若い人だけでなく、中高年の人達にとっても、ひとつの目標、あるいは人生や仕事についての希望にはなるんじゃないかと思いました。

若い人達にはもちろん、老いて劣化するという観念がなくなりま
すしね。

だって、30歳からなら70年、40歳で60年、50歳からでも50年以上
の年月を使って、仕事のある人生を歩くことができるんですから
...

気づいたけれどもう遅い、ということが消え、これからだって ま
だ十分 間に合うんだって思えますもの...

本の中に、こんなことが書かれていました。



「あなたの人生を粹におさめない」

彼女の若い頃は、23歳までに結婚しないとオールドミスと疎んじられる時代だったために、みんな卒業とともに親が決めた相手に嫁いで行ったと…

しかし、自分は歳には無頓着で、歳を基準にものごとを考えたことが一度もない。

24歳で家を出て、30歳代後半に自由な作品が作れるようになり、40歳を過ぎて個展、43歳で渡米してから後、作品が世に知られるようになったのだと…書いています。

友人達は、ほどなく戦争が始まって、未亡人になり、舅姑に奉公

する人生を送り、悔いを残す人生となったとも…

しかし、これは彼女のある意味 嫉妬でしょう。

人生はまた、長く生きるだけが目的ではなく、苦勞も喜びもまた、財産であって、たとえその人が老いて認知になろうとも、生涯に人生を賭けられる一瞬があったならば、十分生きた価値があるのではないかと思うからです。

女性が親になるということは、苦勞を背負うことであり、時には人としてのプライドを捨て、自分よりも経験のない年下の人間、あるいは自分が輕蔑している人間にさえ、頭を下げることを余儀なくされるということです。

彼女にはこれがありません。

これを知らずして、「百歳は治外法権」と言うのは、いかななものでしょう。

もしかして、彼女の友人はひとりで自由な世界を選べない環境だったかもしれない。

自分のように、自立して生きさせてくれる裕福な環境を持たなかったかもしれない。

たとえ、100歳を過ぎていようとも、そういうことに目が向かない人をわたしは、尊敬はできません。

未亡人になってからの、苦勞の月日も、たった数日数年の夫婦の

思い出が支えていたかも知れないじゃないですか。

子供がいれば、子供の成長が喜びをもたらし、苦勞が人間を成長に導くこともありましょう。



長く生きなくとも、そういう当たり前の人生もまた、すばらしい一生なのではないかと わたしは思うのです。

ただし…

遠い過去に、教科書に載っている「夏目漱石」とか「芥川龍之介」とか「太宰治」などと 実際に親交があったと言えるのは、やはり長く生きてこそ、羨ましい限りですね。

彼女はニューヨークのパーティで様々な人種、文化、習慣を持った人達の集まりに行った時、何がいいかなんて決めつけないで違

うことをおもしろがってる街だと言っています。

そして、影響を受けることそれによって変化することを厭わず、新しいものを創造する精神が人間には必要だ、と言っているのには、なるほどその通りだと思いました。

「相手に従うのではなく、お互いに違うことを面白がる」

最近、著名な作家の本でも、言われるままには賛成をしなくなりました。

本当にそうなのか、ともう一度 自分の中で反芻する作業をするようになりました。

だからわたしは、自分にとって、いいところだけを飲み込むこと

にしています。

「運命の前では、いかなる人も無力。だから、いつも謙虚でいる」

次から次へ 身内友人を亡くし、そこから生まれた言葉だそうです。運命というものの前に、人はいかに弱いものであるかを知った、と書いてありました。

つい1週間ほど前に、岩崎宏美のコンサートに行き、とてもいい曲を聴きました。

「いのちの理由」という曲です。

さだまさし の 作詞作曲で、声量のある彼女が 手話を交えて語りかけるように歌います。

思いつきで、買ったコンサートチケットでしたが、この曲を聴いただけで、買った意味があったな、と思いました。

その歌は、東日本大震災、東北の復興によせて作られたものらしいです。

人の命 をどう捉え、生きるとはどういうことなのか…

人生の永遠のテーマ が歌われています。

ずーっと遠い昔、わたしが手話を学んだ理由、そして 命の尊さを、改めて、深く思い返しました。



ふうちゃんのひとりごと

著 者：あさの 風子

発効日：2015 年 10 月 22 日

発 行：みつわばそこん教室

＝お願い＝

この製品の転載、転売 は禁止されています